



保育園からこんにちわ

「おともだちのかお」

やすえけいこ（四歳・大口）

神土保育園



広報 ひがししらかわ

No.335 64/1

発行 東白川村 ■編集 東白川村企画課 ■〒509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地
 ☎05747)8-3111・内線26 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷株式会社

光の中へ目覚めるふるさと

東濃ヒノキの山あいから朝日が射し初め、霜の化粧をした茶畑に光が生れて来ます。

整備された圃場と花の温室、昔のままの山の姿と家々のたたずまい、ふるさとの歴史と未来への接点に、きらめきながら夜明けが訪れました。



人口の動き

—11月末住民登録人口から—
 世帯数……………917世帯
 人口……………3,565人
 転入……………4人
 転出……………10人
 出生……………3人
 死亡……………4人

先月と比較して7人減
 昨年同月と比較して14人減

▲ 撮影地 五加柏本



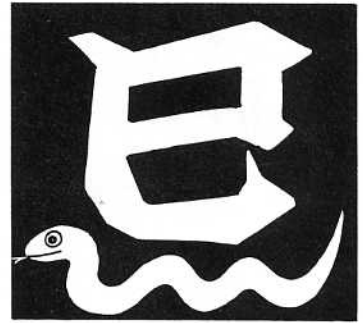
今井 喜代さん 95歳

M26・11・5 生れ(宮代)

・長生きも皆んなのお陰ですわ。

M26年生れ1人

今年巳年、すなわち蛇年です。蛇は、生きている間ずっと成長し続けます。発育にともなう、古い皮は三か月に一度定期的に脱ぎ捨てられ、新しいものと取り換えられる―脱皮です。お正月を機に今年こそは新しい試みをと、脱皮を心がけておられる方、うまくいくといいですね。そこで、村の巳年生れの方にチャレンジ89と題して一言づつお聞きしたいのですが二百八十人(十一月末現在)もの方がみえますので、村に在住されそれぞれの巳年の最初に生れた皆さんに代表して一言づつお聞きしました。



清新の気
満ちた新春
を皆様には
健やか
にお迎
えになりましたことをお喜
び申し上げます。旧年中は
村行政各般に亘り皆様のご
理解とご協力を賜り有難う
ございました。

過ぎし年を顧り見ますと
き村内外に於ても多くの特
筆すべき出来事がありました。
岐阜中部未来博東白川
の日のイベントの熱演、二
十五ヶ国の外人を迎えての
国際交流会の開催、旧満州
開拓地への慰霊訪問団派遣、
社会福祉協議会の法人化を
始め県営畑総事業、主要地
方道白川加子母線改良事業の推
進、村おこし事業始め農林商工
業の振興等各分野に亘り、大き
な成果と前進が出来感謝にたえ

21世紀をめざして

― 村長 桂川 眞郷 ―

新しい年を迎えました今年、東
白川村立村一〇〇年の記念すべ
き年であります。この機に
あたり希望と活力ある二十
一世紀を開くためこれから
の十ヶ年における具体的施
策について村民皆さんの英
知を結集し、二十一世紀へ
のビジョンづくりと夢おこ
しが大切だと思えます。
今年も内外の諸情勢は激
動と変化の年と思われま
す。村民皆様の幅広いご協力と
積極的参加によって着実な
前進と素晴らしい夢おこしの
年になることを念願し決意
も新たに村政の進展と福祉
の充実に努力して参ります。
一層のご指導とご支援を
お願い申し上げます。ふるさとの全
てが幸せな一年でありますよう
祈念し、年頭のごあいさつと致
します。

チャレンジ百年・東白川村 歴史の実りを未来への糧に

明治二十二年、町村制施行と同時に東白川村が生れて百年。

激動の時代をひたすら生きてきました。今、振り返る歴史は、未来へのスタート台です。百年の礎石の上に、私たちは誇りと希望をもつて、二十一世紀を開きます。
(東白川村立村百年のメッセージ)

新しい課題が目の前にある

東白川村に、ほ場整備のブルドーザーの音が響き始めたのは今から八年前でした。

私たちの村の、生活、生産、文化の発展のために欠くことのできない基本的な環境条件の改善であります。

早いもので、今年「面工事」と呼ばれる農地の区画の整備が終了します。

これらの工事を、村の全域で進めて来た「県営畑総事業」は村の人たち全部の、チャレンジ(挑戦)精神で始り、押し進められて来ました。けっして農家だけではありま

あとは農道の整備が続けられますが、これは「農道」という名ではあっても、私たちの日常生活に直結した道路が多く、私



新田兼博さん 35歳

S 28・1・13生れ(平)

・家族健康で暮らせる1年に挑戦!

S 28年生れ39人



牧野邦子さん 47歳

S 16・1・4生れ(陰地)

・車を使わないよういっしょうけんめい歩き!

S 16年生れ44人



島倉 蔵さん 59歳

S 4・1・1生れ(平)

・空いている時間は体操をしてバリバリ働きます。

S 4年生れ55人



島倉ハルエさん 71歳

T 6・2・7生れ(黒測)

・体に気をつけてまだまだガンバリます

T 6年生れ44人



小池加男さん 83歳

M 38・2・3生れ(中谷)

・今年も風呂のたき木づくりを続けられたら

M 38年生れ19人



田向玉緒さん 28歳

S 40・4・14生れ(上親田)

・国際交流にチャレンジ!

S 40年生れ42人



安江清文さん 11歳

S 52・1・17生れ(上親田)

・今年中学生、剣道部に入って頑張りたい。

S 52年生れ36人



いよいよ百年の年の幕明けであります。この

先人の努力を引き継ごう

— 村議会議長 今井啓市 —

この冬の厳しい寒さに耐えて朝日にきらめく東濃ひのきの美林も、植えて育てた努力を忘れることはできません。全村的に進められてきたほ場整備事業も、今年一年ではほぼ完

結しようとしています。この整備された環境の上に、どのような生活を築いていくか、新しい課題が私たちに課せられています。また、先人の残してくれた東濃ひのきという資源を最高度に活かし、最大の地場産業である木造建築の飛躍のために、コンピュータを駆使したプレカット工場の建設が進んでいます。私たちは、立村百年という記念すべき年に生きている者の責任として、夢のあふれた未来への青写真を、この機会に作る事が、必要であると思います。そのために、住民の声を行政に反映させ、身近な生活と行政を結ぶ議会の役割を一層発揮させるよう、がんばりたいと思います。皆様のご支援を心からお願ひ申し上げます。

そのほ場整備事業は、東白川村が生れてから百年の、フィナーレを飾るにふさわしい大事業でした。そして今、新しい幕が開こうとしています。その舞台の上で、私たちは新しい百年へチャレンジを続けなければなりません。もうその序曲は始っています。何よりも村の発展の基本となる白川加子母線の改良は、五加地区に続いて越原地区でも計画が進みつつあります。また、地場産業振興の期待を集めて、木造建築プレカット工場の建設が進められ(詳報十一ページ)、全村全域の水道計画も陽の目を見ようとしています。地域医療の中心である東白川病院の再整備も、今年には検討課題となるでしょう。もちろん、立村百年の記念行事やイベントも、村民総参加で行われようとしています。そして、これらの夢とアイデアを織り込んだ、東白川村の将来像の設計図ともいえるべき、総

計画の具体的な実施内容づくりを、今年のうち完成し、二十一世紀と呼ばれる新しい百年へ向って、チャレンジしていきます。

来像の設計図ともいえるべき、総

せん、私たちの村の、人が居住している集落地域の全部の姿を変えた、スケールの大きいこの事業は、村の人たち全部に何らかの関係をもたらさずにはおきません。

このほ場整備事業は、東白川村が生れてから百年の、フィナーレを飾るにふさわしい大事業でした。そして今、新しい幕が開こうとしています。その舞台の上で、私たちは新しい百年へチャレンジを続けなければなりません。もうその序曲は始っています。何よりも村の発展の基本となる白川加子母線の改良は、五加地区に続いて越原地区でも計画が進みつつあります。また、地場産業振興の期待を集めて、木造建築プレカット工場の建設が進められ(詳報十一ページ)、全村全域の水道計画も陽の目を見ようとしています。地域医療の中心である東白川病院の再整備も、今年には検討課題となるでしょう。もちろん、立村百年の記念行事やイベントも、村民総参加で行われようとしています。そして、これらの夢とアイデアを織り込んだ、東白川村の将来像の設計図ともいえるべき、総

計画の具体的な実施内容づくりを、今年のうち完成し、二十一世紀と呼ばれる新しい百年へ向って、チャレンジしていきます。

苗木藩の領地時代から、鹿藩置県(明治初年)まで7カ村があった。

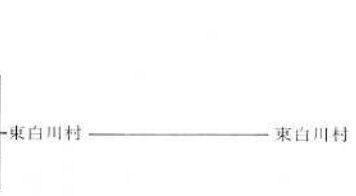
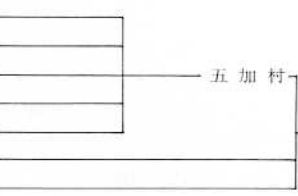
明治7年8月、小規模村の合併で、五加村ができた。

明治22年7月1日、町村制施行により、東白川村が生れた。

昭和32年、岐阜県知事の合併勧告を拒否した。

昭和64年7月1日、立村満100年を迎える。

- 柏本村
- 宮代村
- 久須見村
- 大沢村
- 下野村
- 神土村
- 越原村



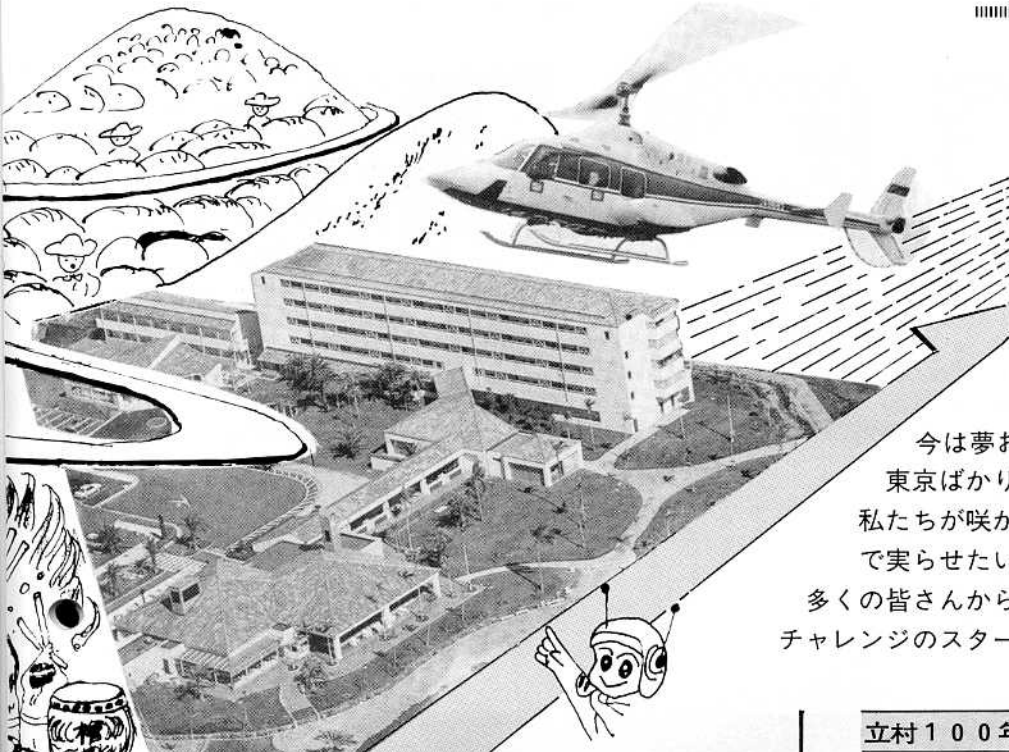
東白川村のおいたち

チャレンジ 100年 東白川村

今は夢おこしの時代と言われます。
東京ばかりが夢の都ではありません、
私たちが咲かせた夢は、私たちのこの村
で実らせたいものです。

多くの皆さんからの夢の呼せ書きです。
チャレンジのスタートです。

に向かつて



多目的会館への 大きな夢と期待

私たちの村に「総合会館」を作ってほしい、という提案は多くありました。

柏本の今井ちづさんは、その中で結婚式もできる、体力づくりやリハビリのできる器具も備え、図書室もあると良い、という意見です。

安江文吾さん(下親田)は寒陽気山に百人くらい宿泊できる施設を造り、青少年の学習や、村民の場の

立村100年キャッチフレーズ応募作

(抜粋)

歴史の恵み自然の恵み100年、さあ躍進だ!	平	伊藤ますみ
未来にひらけいちまるまる良い事は良い心で良い行いで積極的に進めよう	平	安江守平
百歳のわが村良き村大きく伸ばそう	西 洞	小池弘子
先人に感謝、現代を守る、未来へ申送る	下親田	安江文吾
山はふるさと(水の、緑の、文化の、心の)山よ村と俱に……	加舎尾	新田義男
百年の齢学びておこす村	加舎尾	今井勝子
清い、見直す、住み良い、励ます、力強い、作り出す	西 洞	河田重喜
MTS-100年(M明治、T大正、S昭和)	日 向	田口安幸
伸びよ香れよグリーン100年	加舎尾	今井みどり
手を繋ぎ心通わせもう百年	宮 代	安江奎一
人と人との語り合い	宮 代	三戸二一
みつめよう来た道行く道	平	大坪久美
ザ、百年	平	大坪久美
未来へのかけ橋立村100年	柏 本	今井正明
さあ語ろう創ろう拓こうよ	柏 本	今井昭義
89立村100年、飛翔の東白川	柏 本	今井昭義
Ⓚから出た太陽が		
Ⓛい大地を照らします		
Ⓜをはさんで西東	黒 淵	安江喜重
Ⓨ年の郷ここにあり!		
清く明るく緑の里、神の里	平	安江一三

にしたい。

また平の伊藤美枝さんは、高齢化社会になりつつある時、高齢者の「憩の家」を作ってほしい、そしてそこで、ちよつとした生産活動や、軽スポーツ、保健婦さんやヘルパーさんとの交流や指導が受けられるように、と、切実な希望を寄せられました。

東白川中学校からも、多目的な総合会館の建設が提案されています。

これらの施設は、私たちの村にどうしても必要なものです。村の総合計画の中へ組み込んで、何とか少しでも早く実現するよう努力したいと思います。

村の歴史、民俗資料館のようなものの要望も、西洞の小池弘子さん、文化財審議会の皆さん日向の桂川政一さん、老人クラブ長寿会から出されています。小池さんはその資料館のそばに村の特産品を売っているような店もあつたら……と夢を広げました。

産業発展の拠点施設を

村の特産を売り出すという観点からは、木造建築組合からスケールの大きい提案があります。村内の適当な場所に「東白川の家」のモデルを建て、これを特産品販売や、イベント施設として利用するというもので、さ

村を創る・人が創る
 はばたけ未来へ！



あなたの夢
 届いていますか

21世紀

らに、同じもの
 のを名古屋
 市周辺に
 もうけ

て、東白川そのものを売り出す
 ためのステーションにしようとい
 うものです。

村内の特産品等販売施設は村
 づくり実行委員会からも強い要
 望が出されており、実現の方向
 に向って村づくりの中で検討が
 続けられています。

また中学校から出された村
 内の道標、案内看板の設置
 はさっそく実行に移すこと
 になりました。

立村百年記念植樹、小谷の
 桜の復活、フラワー道路、ふる
 さと料理まつり、仮装大会など
 立村百年記念のアイデアもいっ

ばいで、楽
 しい百年が
 やって来
 そうな予
 感です。

ツチノコ(槌の子)に 懸賞金100万円



わたしは見た!? 目撃者座談会

各団体や集落の間で、立村百年記念事業の企画がたてられつつある中、巳年にちなんだユニークな話題が飛び込んできました。それがなんと、わが国最大の未知生物といわれる、あの謎を秘めた幻の蛇「ツチノコ」を探そうというものでした。全国では、既に懸賞金を付けて大掛りなツチノコ探しが行われており、中でも奈良県の下北山村は目撃事件の多いところとして知られています。しかしその下北山村でさえ一年の目撃者は四人。そこへきて本村は、知られているだけでも六十三年に二人が目撃しているとあって、十二月三日、さっそく、ツチノコを夢追う村内目撃者ら十四人が、一堂に会して座談会が開かれました。

灰色で銀色に光る珍蛇



安江きりさん(下親田)

これ
まで村
内で目
撃され
た珍蛇
は、ほ

んとうにツチノコだったのでしようか。それともなにかの見聞違いだったのでしょうか。

そんな謎を「わたしは見た!?」と、言われる目撃者の証言で追ってみましょう。昭和六十二年十一月、平の今井時郎さん夫婦が中谷で目撃した蛇(広報三二六号掲載)と、姿・形とも同類のものと思われる蛇が同じ年の六月四日に下親田でも目撃されていることがわかりました。

「良く晴れた日、下親田の安江きりさんが、いつものように茶刈りをしていると、突然足元をビールビンくらいの太さの蛇が、サツサツと通り抜けた。ピツクリして近くにいた安江けい子さん(下親田)を呼び、二人でしばらく観察すると、太いわりに尾はキュウと細く先の方が黒かった。胴体は、ミカン袋のようにアミアミの模様があり、ネズミ色をしていたがすごい光沢があった。」

そして体を曲げず、ズルように真つすく茶株の中へ消えた」といいう話でした。

安江正之さん(曲坂)



●ツチノコの目撃証言から推定されるその姿

※参考に全国で目撃された特徴も付け加えました。

- 口/大きく、中が赤い。毒は不明。ネズミのような声で鳴く。
- 鼻孔/イビキをかく。噴気音を出す。
- 目/普通のヘビより大きく鋭い。マブタがあり、まばたきをずる。
- 頭/幅広く平たい。三角形をしており、ワニ皮のように硬い。
- 首/くびれている。



- 胴体/長さ30~50センチ。直径7~15センチ。背の中央が目立って高い。ウロコは大人の小指の爪くらいある。背中の色は、ネズミ色。油を塗ったようにキラキラと光り、マムシより大きい斑状紋あり。腹の色は黄や朱色。
- 尾/細くて短い。しかも強く、尾で木にぶらさがることもできる。

今井時郎さん(平)



田口穂さん(平)



右のもの許しなく村に住みつき時折り出現しては村人を驚かせるくせものにつき、すみやかに生け捕りを要す。

手配書 槌の子

東白川村槌の子探そう会
電話(八二〇四八)
大代表 大坪信也

賞金	生け捕り金百方両
死体	金五十万両
写真(写真)	金二十万両
皮	金二万両

●その他/前進、後退が自由にでき、2メートルほどジャンプができる。威嚇するときは胴を張り、尾部で立ち上がる。急流を泳ぎわたることもできる。

村内目撃箇所



もう一人は、曲坂の安江正之さんと同じく五月に茶畑の石垣付近で目撃しています。そして証言の中で共通する点は「色は灰色・太さはビールビンくらいで、長さは四十センチくらい。尾



古田眞之助さん(柏本)

茶畑を好むツチノコ

安江きりさんの証言を裏付けるかのように、六十三年にも二人の目撃者がありました。一人は日向の安江波津子さん



有田房雄さん(下親田)

は短かくネズミの尾に似ている。そして正之さんの話では、『見たことは無い人は「マムシがネズミを飲んだの見間違えたんじゃないか」というのが、わしはもう何十年もマムシを捕つとるし、ネズミやカエルを飲んだ姿も何回も見ているが、そんなものとは全く違う蛇じゃった」とツチノコであることを断定するような貴重な証言でした。

更にこれを確定づけるため、東白川ツチノコの証言から推定される姿をもとに、百科事典や雑誌などで調べてみると、全国で目撃されたその姿・特徴(六ペーシ下図)とほぼ一致し、間違いなくツチノコであることと思われれます。

間違いなくツチノコだ!

懸賞金付けて探索開始



目撃した蛇がツチノコと決まればさあ大変。万一生け捕りにでき、村お

こしに役立てられると。夢は大きく膨み十二月三日をもって「東白川村ツチノコ探そう会」が結成された。懸賞金を付けて四月早々にツチノコ探しを行うことに決定しました。



東白川村ツチノコ探そう会 63・12・3



賞金▼生け捕り金百万円
▼死体 金五十万円
▼写真 金二十万円
▼皮 金二万円
※いずれも最初の持参者に限る。
●賞金(募集)先着百名
さっそく、ツチノコ探そう会では立村百年を記念して、百人の夢追う会員を募って大探険隊をつくり、ツチノコ探しにチャレンジすることになりました。
入会を希望される方は、会長大坪信也さん宅(有線二八六五)または副会長の安江文吾さん(有線二七八七)・田口稔さん(有線二七四六)宅へご連絡下さい。

区分	集落	氏名	備考	区分	集落	氏名
見聞者	上親田	大坪信也	会長	見聞者	日向	安江波津子
"	"	大坪定子	"	"	柏本	古田眞之助
"	下親田	安江文吾	副会長	"	"	古田順子
"	"	安江勇造	"	"	久須見	古田小夜子
"	"	安江きり	"	"	大沢	今井季一
"	"	有田房雄	"	"	"	今井一雄
"	平	田口稔	副会長	"	大口	今井和男
"	"	今井昭	"	"	"	安江章三
"	"	林一巳	村史研究会	"	平	小池正二
"	"	今井時郎	"	"	"	伊藤雄雄
"	曲坂	安江正之	一般	西洞	西洞	樋口敬一郎
"	日向	安江末男	"	大口	大口	村雲康彦

ツチノコは蛇になる過程で進化の止った生物かもしれない



○目撃談ばかりで実体のない生物といわれるツチノコであるが、ツチノコによく似た生物は世界各地に実際に棲息しているのだ。しかし、これらの生物が日本に定着していることは考えられず、見まちがいとも思えない。(左)アオジタカゲ。(中)ミナミアリゲータートカゲ。(右)マツカサトカゲ。

88 振の返えれば話題がいっぱい!

一九八八年は「戸惑いと、興奮の渦の中に」未来の風を巻きおこして、村の歴史に新しいページを刻みました。中でも、自然のサイクルを変えた異常気象は、わたしたちの暮らしにさまざまな影響を与え、またぎふ中部未来博をはじめとする数々のイベントから、若者のみなぎるパワ―が引き出されました。

こうした記憶に新しいハードな話題と、身近な話題にふれながら過ぎ去った年を眺めてみましょう。

異 常気象に見舞われた

昭和六十三年を振り返るうえで、特筆すべきことは、百年に一度の異常気象が発生したことでした。

五月九日、村を襲った凍霜害は、昭和四十八年当時に匹敵する大規模なもので、特に茶園・桑園に大きな被害を与えました。しかし徹底した緊急対策処置の結果、前年に比較して約二十三日の減収に止まっています。

また六月二十一日には、日向・陰地を中心に雹が降り、出荷



雹害

この後に待ち受けていたのは、例年のように六月八日に梅雨入りはしたものの、七月に入っても明けの兆しがなく、なんと五十四日振りに（七月三十日午前十一時）やっと梅雨が明けました。

ところが前線は停滞し、九月末までこの長雨を引きずったため、空前の日照不足が生じたのです。

白川町黒川観測所の調べによると、四月から九月までの日照時間は七百五十五時間、前年に



▲ 背丈をはるかに超えた里芋

比較して三百七十時間も減少していました。また降り続く雨に白川は増水したままで、夏休みを迎えた子供たちの川遊びや、アユの網漁を待ち望んでいたファンの夢を奪いました。

農 家の底力を見た!

こんな異常気象の年にも、農家の皆さんはジツと耐え忍び、長年の目標であった園芸作物の生産販売高一億円を達成しました。

そして新しい取り組みとして、東白川村機械化営農組合が設立され、ほ場整備済水田の七十割に相当する水稲作業を受託しました。



今年も水稲作業は営農組合で!

また村おこしに一役を買おうと「肉用めん羊」が導入されました。羊肉（ラム肉）から羊毛まで用途は広く、飼いやすいであって話題を呼び、現在三頭が飼われています。

ユニークな話題として注目された、初の「ジャンボカボチャ大会」は、上親田

飼われてい



かわいいうで村めんどし

の安江康助さんから出品された、四十・六割のジャンボカボチャがみごと優勝し、農家に明るい話題の種がまかれました。

松 茸 三千万円の大台

林業の分野にも、気象の影響がみられました。

一つには「山の宝石」ともいわれるマツタケが、約十日遅れで一斉に顔をのぞかせ、あたり一面に気品のある香りを漂わせていました。

マツタケにとってはほど良い天候であったのか、一日六十鈴



白川の目

広報で見る 六十三年の 時の出来事

- 1 月 ▼ 成人式 ▶ 新成人 167 名 (男 32 人・女 37 人) が大人の仲間入り。
- 2 月 ▼ 第一回「ふれあい」村民綱引き大会 ▶ 村内 11 地区から七種目に五十一チーム約六百五十人が参加して激戦が繰り広げられました。
- 3 月 ▼ 消防団入退団式 ▶ 松岡副団長ら十七人が退団、新しく十七人が入団
- 4 月 ▼ 国際交流会 ▶ アジア・アフリカなど開発途上の二十五か国から三十五人の外国研修生が訪れ、国際交流の種がまかれました。▼ 地域活性化現地研究会 ▶ 梶原副知事を開いて、活性化のアドバイスを受けました。
- 5 月 ▼ 茶園・桑園凍霜害を受ける ▶ 十五年振りの被害をもたらした凍霜害。
- 6 月 ▼ 加茂郡消防操法大会優勝 ▶ 小型動力ポンプが、三回連続十回目の優勝に輝く。▼ 未来博「ふれあいの炎」到着 ▶ 炎



コンパ



の出荷を最高に、農協松茸集荷場の精算で昨年を一千万円上回る、二千万円の太台に乗りました。

また、長雨で樹木の成長量が大きかったことも影響の一つに挙げられます。

そして内需拡大のあおりを受け、木材価格は一年を通じて、高値で取り引きされたこと。林業機械の革命ともいわれる枝打ロボットが登場したことなど話題を呼びました。



通

行止・廻り道

村のあちらこちらで道路工事、ほ場整備工事が行われており、行く手をはばむように、通行止・廻り道・時間規制の看板に出くわし、なかなか目的地へ着けず、イライラされたことと思います。

しかし規制が多いことは、村内の整備が行われている証拠で

村

おこし強力に推進

ッチフレーズに、全国へ向けて村おこし産品の売り出しが始まりました。

また、情報でふれあうふるさと体験をキャッチフレーズに二百二十三名の会員を登録したふるさと会。春の「新茶便り」



大規模な畑地整備を行った下親田地区

あり、一面喜ばしいことです。

村は今、少しずつ様相を変えようとしています。山を削り、土を押し、道水路を付け変える工事が急ピッチで進んでおり、ほ場整備事業も六十三年に四十二号を完了しました。これで予定地区の八十五号が整備されたことになり、残す未着工地区は平・宮代・下野の三集落となりました。

若

者が結集した!

六十二年は、とにかくイベントの多い年でした。

四百七万人の入場者があったぎふ中部未来博。二十五か国三十五人の外国人研修生とふれあった国際交流会。そして夏まつりの中で催された、手づくり舟コンテスト、ペアーアユ掛け大会、五介の登場など、休む間もなくイベントが繰り広げられました。



伝説の五介

これらのイベントを支えてきたエネルギーの根源は、若者の結果によるアイデアと、パワーにありました。そして、その中枢に東白川青年団体連絡協議会が結成されたことは見逃せません。

六

学級が五学級に

戦後のベビーブームをピークに年々出生率が低下し、六十三年度に東白川中学校へ入学した生徒数は三十五人と、開校以来最低の入学数者でした。昭和二十四年にA組・B組による学級編成が行われるようになって以来三十九年目に一学年一学級となり、六学級制から五学級制に変わりました。

しかし学級は減っても、伝統は失われていません。秋季新人戦において、男子バレーと女子バスケットが優勝を果しています。

パ

ンコンがやってきました

ハイテクの波は村にもやってきました。タイプからワープロになり、情報処理もパソコンが活用されています。そして、東白川小学校の授業にもパソコン六台が導入され、二十一世紀を担う村の後継者に期待が寄せられています。

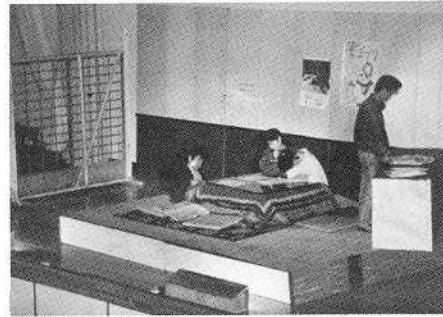
また児童たちの思い出の中には、黒い顔の人、目の青い人、髪の毛のチリチリの人達とふれあった国際交流会が、驚きと不安の中に体験した、最高の思い出であったようです。

昭和六十三年は、あなたにとってどんな年でしたか。

- 7月 ▼ 東柳毛溝友好訪問団を派遣 七月六日から十二日までの七日間、中国東北地区(旧満州)へ村長ほか二十二人が慰霊訪問。▼ 未来博開幕 七月八日から九月十八日まで七十三日間。
- 8月 ▼ 未来博 東白川讃歌の発表 総勢百九十名が、村のPRに繰り出した。▼ ふるさと夏まつり ザ五介 二百年の歴史の向こうから五介が登場。初の「手づくり舟コンテスト」が行われました。
- 9月 ▼ 東白川母子健康センター二十周年 千五百六人のいのちを育くみ、満二十歳を迎えました。
- 10月 ▼ 村民一日枝打ち奉仕 久須見村有林へ七十人が集まり、四割を完了。
- 11月 ▼ 五加バイパス一号線に着手 ▼ 産業祭
- 12月 ▼ プレカット作業用建物新築工事に着手 ▼ 西洞センター竣工 ▼ 青年祭



チャレンジは若さの特権 — 青年祭 —



十二月十一日、第四十一回を迎えた伝統行事、東白川青年団（今井繁人団長）主催の青年祭が、例年より一ヶ月早く開かれました。

会場となった東白川中学校校体育館へは、師走の忙しいなかにも約百人の観衆が訪れ、用意されたコタツやストーブを囲み、なごやかな雰囲気なかで青年たちの熱演に見入っていました。今年の青年祭は、これまでの

分団（神土・越原・五加）単位の壁を取り除いた、新しいスタイルで催され、メインである創作劇の上演も、二十六人の団員の考えを一つの創作劇「それぞれの時代をこえて」に結集して披露しました。

上演に当たっては、団員一人ひとりが一役を受け持ち、二ヶ月間の練習と準備に真剣に取り

組んだ成果がみごとにまとまり、「近年に見られない感動に心を打たれた」と、教育長の講評をはじめ、来場された皆さんの感想のなかに、聞くことができま

そして、中学二年生六人による檜太鼓をはじめ、未来博シラセサイザー演奏でおなじみの安江太一さん（中通）、アマチュアバンド「A-B-E-Z」の皆さんらが花を添えました。

団員数が減っても、新しい発想と試みのなかにチャレンジした団結力が、今回の青年祭を成功に導いたといえるでしょう。

二つ重なった竣工式 — 西洞 —



神事、テープカット、渡り初めとお祝が続く

今年八月から工事が進められていた西洞構造改善センター（西洞センター）と、昭和六十年から四年度計画で進められてきた西洞本線の道路改良事業及び橋梁整備事業がこのほど完成し、十二月十一日、華やかに竣工式が行



西洞センター全景



西洞センター竣工式
西洞本線道路改良事業
祝

このセンターは、昭和六十年から事業開始となった新農業構造改善事業の第四年度事業として建設され、総事業費一千四百四十五万円（うち地元負担一戸当たり約二十三万円）、建物面積百二・六八平方メートルの木造平屋建です。

外観は、これまでの堅い集会場のイメージを一変し、本格木

われしました。

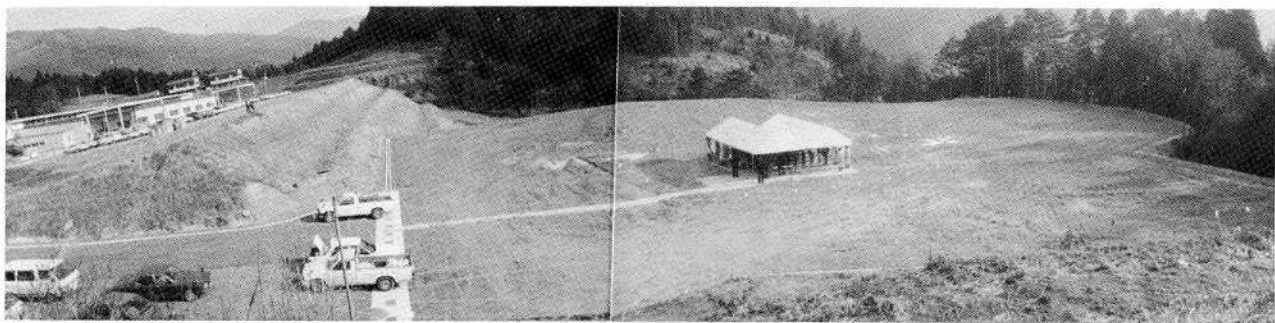
また西洞本線は、一級村道神土角領線を起点に東橋から中谷へ通じる重要路線として、総事業費一億六千九百五十万円を投じて、七百四十三メートルの道路改良と、二十一・六メートルの一号橋、三十四・九メートルの二号橋を完成し、昭和六十四年度に舗装工事を残すのみとなりました。

（け） （い） （じ） （ば） （ん）

- ▽おくやみ申し上げます
- 田口 平吉 82歳（西洞）
- 安江 京一 55歳（日向）
- 菊田 さだ 82歳（曲坂）
- 伊藤 寛 54歳（栃山）
- 安江 時信 44歳（大明神）
- ▽いつまでもお幸せに
- 梅田 克彦（平）
- 鷺見奈保美（郡上郡白鳥町）
- 松田 雅徳（武儀郡洞戸村）
- 菊田かのえ（曲坂）
- 村雲 成男（陰地）
- 安江由紀子（柏本）
- 今井 清高（曲坂）
- 安江美登里（白川町）
- 園部 浩晃（岐阜市）
- 木曾美和子（平）

- 戸籍の窓 十二月十五日現在
- 在 敬称略
- ▽誕生おめでとうございます
- （神 付）村雲 健次 絵理加（長女）
- （下親田）安江 雅人 亜季美（二女）
- （上親田）安江 一郎 温美（二女）
- （大明神）橋 光一 麻利江（長女）
- （平）安江 任弘 真幸（長女）
- 法美（長女）

■善意の寄付 敬称略
〔社会福祉指定寄付金〕
現金七万二千九百六十円



プレカット工場 — 起工式

越原曲坂、岐阜部品工場南側の村有地を借り受け切り開かれた、約四千平方メートルの造成地で十二月九日、地域材産地化形成促進モデル事業による、プレカット作業用建物新築工事の起工式が行われました。

この事業は、「東濃ヒノキ」を主体とした木材建築関連産業の産地化を進める目的で、白川町と東白川村が一つの共同体となつて進めることを基本に、国の地域指定を受けてこのほど事業者の運びとなつたものです。

広大な山林を抱える両町村の産業分野において木材建築関連産業は、重要なウエイトを占めています。そして住宅建築の受注拡大を図ることが、最大の地場資源である東濃ヒノキに多面的な付加価値をつけることにつながります。

しかし住宅建築の現状は、受注がありながらも人手不足、技能不足といった問題から、対応し切れない実情にあり、増産を見込めない状態です。更に、大企業が住宅建築産業に介入して



きたことにより、高度な加工技術と品質管理が要求されるなど、差し迫った課題に直面しています。そこで、地域材である



東濃ヒノキを、計画的、安定的に供給できる体制を整備することが林業者への所得向上につながる。この事業により住宅構造材の加工施設（プレカット工場）を東白川村に、総合的な製品流通センターを白川町（三河地区）に建設することになりました。

地域内のそれぞれの森林組合が中心となり、各関連業者が相互に加入した事業協同組合（東濃ひのき白川プレカット協同組合・東濃ひのき製品流通協同組合）が設立され、六十五年までの三年間に整備される計画です。こうした背景の中で今回着工を迎えた、プレカット工場（九九九平方メートル）の建設により、木造住宅一棟分（約四十坪）の構造材加工に要していた約半月の期間が、わずか一日半足らずに短縮されます。伝統ある在来工法の中に新しきを取り入れた木材建築産業が、昭和六十五年に二十一世紀へ向って幕明けをします。

シリーズ 思いやりと暮らし Ⅱ その五 Ⅱ

愛情・理性・感情

人間は感情の動物である、と言われています。その感情が今薄れているようですが、いかがでしょうか？

ともかく無表情では寂しすぎます。やはり、嬉しいときには嬉しい表情が欲しいものです。

が、表情の無い人でも心の中は違うかもしれません。そのあたりを配慮してみることも大切かと思えます。相手の立場も考へての行為・行動、これが出来れば、むやみに腹を立てることなく暮らせると思えます。

東白川青年団体連絡協議会
（五介チャリティバザー売上金）
・現金十万円―田口節春（西洞）

〔母子健康センター施設整備指定寄付金〕
現金十万円―安江とくよ（平）

〔東白川小学校へ〕
竹ぼうき三十一本、ぞうきん四十八枚―高砂会（越原）

・煎茶三十箱、煎茶保管箱一箱―東白川村茶業振興会

■工事入札結果の公表
①は入札期日②は落札金額
および落札業者

◆一本線測量試験業務
①十一月十六日②百九十五万円・大洋測量設計㈱

◆大畑線測量試験業務
①十一月十六日②百三十五万円・㈱中日測量設計事務所

◆協力ありがとうございます
した Ⅱ赤い羽根共同募金

昭和六十三年年度赤い羽根共同募金運動は、目標額四十三万円を超えて四十八万三千四百三十四円となりました。

この内訳は、集落で四十四万九千二百八十八円。村職員募金二万七千四百円。窓口募金箱四千七百四十六円。個人二千円となっています。

歴史の証言・立村百年の記録（第九話）

「お寺の無い神徒の村」。現に住んでいる我々には格別の感慨もないことかも知れないが、村の歴史の中では嵐のような出来ごとであったに違いない。その嵐を、当時の村人たちはどのように潜ってきたのであるうか、時代はいつきに百二十年を遡る。

村雲蔵多見聞録

神付の村雲康平さんの祖父に村雲蔵多という人があった。

この人が残した文章の一節を紹介する（現代文訳は前教育長田口博氏による）

「明治四年の正月は例年の通り三日まで休日、しかし年始には進物は一切持たない。門松はなるべく小さなものを用いるように仰せ付けられている。

元旦には、これまでは早朝に隣家へ年頭の挨拶に行っていたが、今年はずまず産土神へ参詣し神酒をいただいたてから名主へ御祝儀を申し上げ、それから隣や親戚へ年始の挨拶に回った。

門松は、従前は三日の夕方倒し、十五日に片付けていたが今年は十五日まで立



笠松町まで流された六地藏

「三月、四月ごろから神葬祭を願う出る者が多くなつた。私も急いでそうしようと思ひ家の者に相談したが、なかなかその気にならず、他人より先に願ひ出る

釈 毀 仏 廃
そのうらばなし

仏名、経典等彫付候石碑類は
堀埋め申すべく候

これは見合せた方が良いという。早く神葬祭にした者がつまずいて足の指を傷めても、人はよく言わぬもので、「あの人は神道じゃ、仏をそそうにした罰があつたのだ」となどありもしないことを言う。

父母はそういうことを嫌らしく思い、急ぐと言われたのだらう……」

今まで長い間信仰して来た仏教（禅宗）を無理やり替えさせられた困惑と混乱が目に見えるようである。

石工伝蔵後日談

苗木藩が徹底した廃仏政策を進めるため、「村々の内、辻堂を毀ち、仏名経典等彫付候石碑類は堀埋め申すべく候」という布達を出したのは、明治三年八月十五日のことであった。

これより三十数年遡る天保六年七月、飢饉、悪疫等に対する祈願と犠牲者の供養のため常楽寺（現在の役場の場所）の山門わきに建立されていた、「南無阿弥陀仏」の名号碑も、当然「堀埋め申すべく候」ということになった。

この石碑を造つたのが信州伊那郡高遠の石工「伝蔵」であつたことは、すでに私たちの良く

知るところであり、この石碑を縦四つに、見事に割つたのも、この伝蔵であった。

時は現代、昭和六十三年十二月十一日、一人の人物が登場する。

この人こそ、現在多治見市にお住いで、伝蔵の曾孫にあたる桃井勝さんで、何かの縁か苗木小学校教頭を務めておられる。

十一日、東白川村を訪れられた桃井さんから、次のようなお話を聞くことができた。

「高遠地方は高冷地のため、昔は米の収穫が少なかった。したがって、一人の頭を中心にして十数人の石工集団を作り、何組も

の集団が全国各地へ出稼ぎに出た。

伝蔵はその一人であったが、高遠石工の使う材料は、きまつて東白川村で見られるような、硬い青石で、これを横積みにして石垣を造る技術を持っていた。五加大沢の蟠龍寺跡に今も残る石垣は、確かに高遠石工の横積みであり、近郷まれに見る大工事であつたと思われ。また平バイ



本村を訪れて下さった桃井さん（12月11日）

今年門松は、百年の歴史のポイントの上に立っている……

バス高橋の下にも高遠石積みが残っている。



高遠石工の横積み（平高橋下）

伝蔵は、石碑を四つ割にしたのち十数年で没したとのことであるが、今に残る石碑の縁が、百二十年前の廃仏の嵐を潜り、東白川村が生れてからの百年も激動の時代を乗り切つて来た今日の私たちと、伝蔵の子孫とのめぐり合いを呼んだのである。

伝蔵は、石碑を四つ割にしたのち十数年で没したとのことであるが、今に残る石碑の縁が、百二十年前の廃仏の嵐を潜り、東白川村が生れてからの百年も激動の時代を乗り切つて来た今日の私たちと、伝蔵の子孫とのめぐり合いを呼んだのである。

話題集れ!

あなたのまわりに明るい話題がありましたら係まで連絡ください。

連絡先 商工広報係 有線2155番

村のベスト10・中部に放映



7位に選ばれたウサギ狩り名人

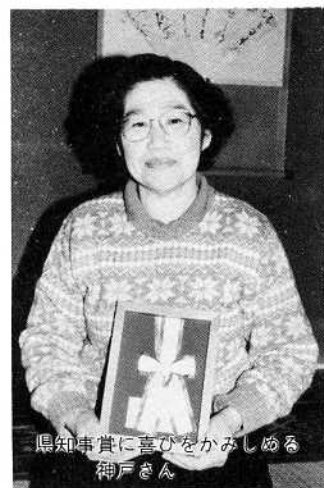
さて、問題です。「あなたが選ぶ村のベスト10は？」と、聞かれてもなかなか即答できない問題です。以上、いつ聞かれても答えられるようにしておきたいものです。そこで、村の資料をもとに中京テレビ「ふるさとわが町ベスト10」製作部が、視聴者の立場から選んだ「村のベスト10」を紹介しましょう。

一位「緑と清流の里・二位」アマゴの炭火焼とトマトジャム

「菓ごもり餅」で全国大会へ

全国牛乳普及協会が、日本人のカルシウム不足を訴え、「飲む牛乳から食べる牛乳」を、推進するねらいで開かれている、第九回牛乳製品利用料理コンクール全国大会が、十二月四日、東京渋谷の服部菜養専門学校で開かれ、平の神戸啓子さんが岐

阜県を代表して出場されました。出品された作品は道明寺粉を蒸したものに牛乳を混ぜ合せ、細かく切ったタマネギ、ニンジン、豚ミンチなどをバターでいため、生パン粉やスキムミルクなどを入れたとき卵に混ぜ合せ、餅の上のせて再び蒸して



県知事賞に喜びをかみしめる神戸さん

出来上がったもので美しい笹の葉に包まれた「菓ごもり餅」と名付けられたものでした。

神戸さんは、新聞でこのコンクールの内容を知り、応募を始めて三年目。昭和六十一年



菓ごもり餅 神戸 啓子

の県大会に、出品された、「グリーン豆腐」が、第一作目で優良賞に選ばれ、続いて六十二年に出品された「信田御飯」も優良賞。今年こそはと、「菓ごもり餅」で六十三年の大会に望んだところ、みごと百五十八人の応募者の中で優秀賞に選ばれ、今回の全国大会となったわけです。全国ともなると、約五千人の応募者の中から選ばれた代表者として、健闘むなしく入賞はできなかったものの、アイデアを凝らしたゆまずチャレンジされた神戸さんの姿こそ、村おこしの原点ではないでしょうか。

新しい大会の誕生

十一月十六日、第一回さわやかビーチバレーボール大会が、東白川中学校体育館と小学校体育館の二会場で開催されました。大会には二十一チーム二百三十人が参加して、地区の名譽をかけて戦いました。

結果は優勝「陰地Bチーム」準

タワ・十位「特産品大集合」産業祭と決まり、十二月十八日に中部地区へ向けて紹介されました。さて、あなたの選んだベスト10は……。

優勝「陰地Aチーム」三位「神付チーム」となりました。



50歳以上の男性も参加権あり

県政バスが走る!!

ぎふ中部未来博など、県民総参加のイベントが行われると、県の事業に関心を持つようになりませんが、ふだん関心が

あってもなかなか知ることができず、また要望があっても主張する機会がありません。

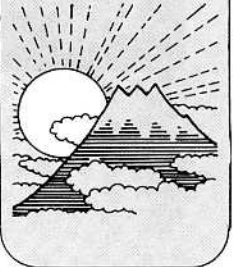
そんな願いをかなえようと、県の施設を案内する走る県政バスが十一月十五日に村を訪れ、婦人会や老人クラブ員の皆さん五十一人を乗せて、県美術館、県庁、農業総合センターを見学して回り、身近な話題にのせた質問が飛びかかってい



県庁内と館ロビーで説明を受ける

ました。

おしらせ



第二回 村民ふれあい綱引き 大会開催 2月5日

第二回村民ふれあい綱引き大会が、二月五日（日曜日）午前八時三十分から東白川小学校体育館で開かれます。



力つくりの機会として取り入れられたこの大会も、昨年は一地区から七種目に五十一チーム六百五十人が参加して熱戦が繰り広げられました。

今回は更に内容を充実させ、一人でも多くの方に参加していただけるよう、年齢層を広げ種目数も八種目に増やされました。競技は、一チーム八人で編成され、無差別級男女・三十五歳

以下男女・四十九歳以下男女・五十歳以上男女で競われます。現在、各編成地区ごとの出場チームを募集していますが、最終登録は当日の午前八時から八時二十分までとなっています。一本の綱に心を結び、力一杯いのちを燃やす。冬季スポーツ綱引き大会に、みんなそろって参加しましょう。

世界初 デザイン博覧会 開催 7・15〜11・26

「ひと・夢・デザイン」都市が奏でるシンフォニーをテーマに、世界で初めてのデザイン博覧会が七月十五日から十一月二十六日までの百三十五日間にわたって、名古屋市中開かれます。



会場は、名古屋城・白鳥・名古屋港の三会場（五十六軒）に分かれ、日本初公開の「ボイジャー」（無給油・無着陸世界一周機）の展示をはじめ、日本の世界のユニークな各パビリオンがあなたを待っています。

「ひのきんど」 冬季イベント 開催 1月22日

冬風物詩「左義長」に、東濃ヒノキの間伐供養を組み入れた新しい冬のイベント「東白川ひのきんど」が、一月二十二日に五加下野地区を会場に午前十時から開かれます。これは、東白川青年団体連絡協議会が企画し主催するもので、当日は三河漫才、檜太鼓の出演のほか、ふるさと会による産品販売、バザー等が催されます。ご家族揃ってお出掛けください。

枋山・黒淵地区民生委員に笹俣さん

お気軽にご相談を

昭和五十五年十二月から八年間民生委員として枋山黒淵地区を担当され、地区の福祉活動並びに村の福祉に尽力いただきました。



昭和三十二年十一月三十日付で民生委員を辞任されました。これに伴い、十一月十八日に民生委員推せん会が開かれ、後任に枋山の笹俣洋子さん（四十六歳）が選任され、十二月一日付で厚生大臣から委嘱されました。今後担当地区はもちろん村全体の児童福祉、老人福祉などの社会福祉活動に、ご活躍いただけたことと思います。

黒淵の内木かずさんが、昭和六十三年十一月三十日付で民生委員を辞任されました。これに伴い、十一月十八日に民生委員推せん会

社会福祉協議会が村の福祉の窓口として設立されましたが、地域の窓口としてお気軽にご相談ください。

③ 知っておきたい税の知識

納税のすすめ

福澤諭吉の著書「学問のすすめ」の冒頭の一句が、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」であることは余りにも有名です。

しかし、税金について「快く運上（税金のこと）を払うべきなり」と次のように書かれていることは、それほど知られていません。

「一年の間にわずか一、

二円の金を払って政府の保護をこうむり、夜盗押込のわずらいもなく、独旅行に山賊の恐れもなくして、安穩にこの世を渡るは大なる便利ならずや。凡そ世の中に割合よき商売ありといえども、運上払うて政府の保護を買うほど安きものはなかるべし。………思案にも及ばず快く運上を払うべきなり」

今、福澤諭吉は万人が手にしていますが、時にはこの「納税のすすめ」も思い出したいものです。

今月の図書



旅路 (上・中・下)

平岩 弓枝著

風雪に耐え、希望に生きた鉄道職員一家の人生旅路。大正十四年十一月北海道は函館から始まるこの物語は読む人の心に限りない愛の感動を呼びおこし、人間の意志とはまるで無関係なめぐりあわせというものがあることを教えてくれる平岩文学の代表的長編小説です。一人でも多くの人に読んでいただきたく紹介します。

いのち華やぐ

瀬戸内寂聴著

「寂庵説法」につづいて誰もがわかる「老い」への指針。人間、年を取るほど自由になる…寂聴師の見事な境地。

人間が生きてくるとは、過去をくよくよ思いわずらわず、未来をあれこれ取り越し苦勞せず、今この一瞬の自分の置かれた立場で、真剣に生きることを教えられる読み物です。

ふるさとのことば ①

ふるさとをテーマに、三十四回にわたって連載してきました。花シリーズ*に変って、新年号から新しく「ふるさとのことば」をお届けします。古くから伝わる方言や訛りは、時代の変化とともに使われなくなってきました。しかし日常使われる言葉の中には、こんな方言が残っています。

★ あんぬく

日常語の「仰向く」が永い間に訛り、変化してできた言葉のようです。「仰向く」は、顔や物などの表面や前面が上を向くことで「あおのく」「あおく」ともいいます。



「あんぬく」はまた、さまざまに訛り、変化しています。例を挙げると「ああぬき」、「ああぬく」、「ああぬけ」、「ああぬきさんぼ」、「あんぬきさんぼ」などとなります。「ああぬく」と「ああぬけ」という訛りは全国的にも多く、東京、飛騨、静岡、愛知、和歌山県、讃岐、広島県などに広がっています。「あんぬく」という訛りは岐阜県だけのようです。「ああぬきさんぼ」は「仰向けさま」即ち上を向けたさま。仰向けになった状態のことです。これも岐阜県だけの訛りのようです。



★ あおなまず
アオダイショウ(青大将)。ナミヘビ科に属する日本最大の無毒のヘビ(蛇)のこと。体長は一・五〜二メートルに達し、性質は温順、山野や人家付近に住みます。辞書によると「あおなまず」は、岐阜県東濃地方だけの方言のようです。



156年前と変らぬ姿で人の訪れを待っている(柏本)



63番札所吉祥寺地藏尊(上親田)

札所はこのほかにも村内に七か所もつけられたというが、そのひとつが上親田にもあった。

第60番 巡礼の札所

— 柏本 —

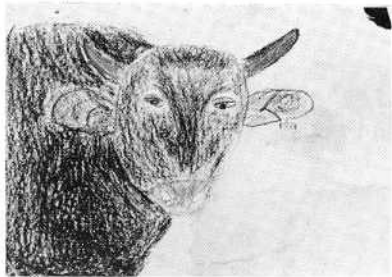
白装束を身にまとい、ぞうりに管笠、手には鈴……といえは時代劇でおなじみの巡礼姿である。諸々の願をこめて、聖地・霊場をめぐることは熱心な信者の一生の願望であった。しかし全国に名を知られた四国八十八か所はあまりにも遠い。そこでこれをまねて新八十八か所が各地につくられた。天保三年(百五十六年前)に恵那郡北部から加茂郡東北部に帯の仏跡を選んで「東濃新四国八十八か所」がつくられたという。その六十番札所が五加柏本にあった。現在の五加保育園の横を抜けて田野頭(安江弘念さん)の前を西へ向う、この道は旧道であるが、田口達雄さんのそばで谷を渡る、この橋のたもとを道ばたに、今も立っている三体の石造物、彫り込んだ文字を手でさすりながら読む、右手の石には「三山供養」と読み取れる。かつて近郷の善男善女が、一生の願いをかけて、めぐり来たり、この石の前にひざまづいたであろうか、リリーンという鈴の音の変りに、今はすぐ下の県道を大型トラックのエンジンが唸る。

郷土に眠る名水・名勝・名木を求めて その9

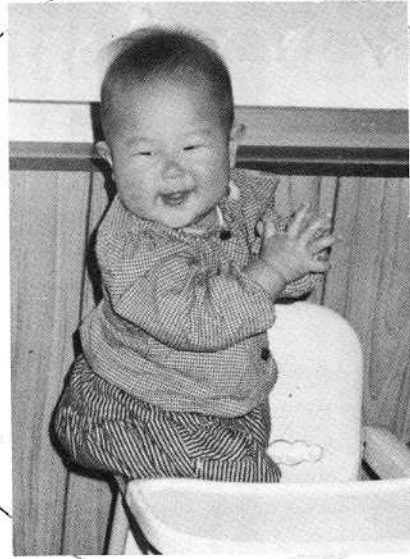
私の作品



▲おさるのかごや(廃物利用アイデア作品)
河田あや子さん(西洞)

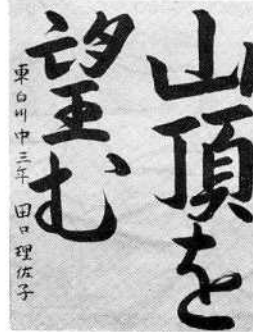


▲うし
東白川小学校1年今井智恵美さん(下野)



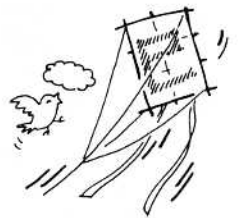
すくすく育て

三戸可奈ちゃん(一歳)大明神
行美さん・美穂さん(長女)



▶習字
東白川中学校
三年 田口理佐子さん
(平)

歌心



あなたの作品をお寄せください。
・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月20日までに、神土伊藤重雄宛に出してください。

- 三合の米にて足れば一握り減らして洗ふ還暦の吾は 安江 香
- 圃場整備の償還金は決りたり諾へと思ひは思ひ数字を眺む 田口 巽午
- 涙もなく見渡すかぎり砂の浜中田島砂丘に吹く風寒し 安江 幸
- 小鳥捕ることの上手な家猫を賞めてもならず叱るには可愛し 早瀬 勇造
- 椿の実紅の色濃く艶めきて葉蔭に待てりやがて弾けむ 今井 かな
- 蔵の壁に影を映せる吊し柿乾きちぢみて甘き香のする 村雲 うめ
- 七宗の岩抱く紅葉の景観はやがて霧水の季にうつりゆく 安江 龍玉
- 柿もぎの冷たき風に身も縮み竹竿の先重く握へり 早瀬 久子
- 壮年のペアと楽しむ庭球大会に齡を忘るる今日の快晴 安江 守平
- 校庭に焚火を囲み秋の日をゲートボールの球競ひ合ふ 安江すみ代
- 同年の知人の病軀からず暗き戦後を共に越えしが 安江 節子
- 賜ひたる茸を炊きて部屋内に香り立つなり夫を待つ間に 伊藤 美枝
- 朝まだき銃声二発と人声す何を撃ちしや今日解禁日 安江 澄
- 臥り居る部屋ふかくまで蜻蛉来てまた羽が去りぬ夏の終りを 古田よし江
- 初霜を避けて活けたる山茶花は部屋にて咲けり白くゆたたく 田口 一枝
- 足萎えの亡き姑思へり水洗となせしトイレに薔薇を飾りて 小池 弘子
- 空と海とひとつに溶けて相模湾水平線は紺青いろに 三戸 きり
- ほっそりと伸びし少年親の丈越えて健か飯多く食む 伊藤 重雄
- 九十壺に蓋をかぶせて税神輿推し通るなりそのけそこのけ 山川 洸
- 新米の強飯おほりつつ心萎ゆ三月食まずに病みます老あり 田口 良三